会　議　録

１　　会　議　名　　第５回北九州市新ビジョン検討会議

２　　会 議 種 別　　市政運営上会合

３　　開 催 日 時　　令和６年１月２９日（月）　１５時００分～１６時００分

４　　開 催 場 所　　リーガロイヤルホテル小倉　３階　オーキッド
（北九州市小倉北区浅野２－１４－２）

５　　出席者氏名　　別添「出席者名簿」のとおり

６　　会 議 概 要　　（１）配布の資料に基づき事務局より説明し、意見交換。

７　　会 議 経 過（発 言 内 容）

議題１～新たなビジョンの最終案について～

【新たなビジョン（基本構想・基本計画）の最終案について】

≪壹岐尾 恵美 構成員≫

○　様々な意見がある中で、質疑にきちんと回答していると感じる。

市民のパブリックコメントが非常に多く、ヒントもたくさんあった。批判めいたことが無く、市の誇りを何とか伝えたいという思いがそれぞれの立場であると見受けられた。提出件数が 362 件ということで思った以上に多く、嬉しく思う。

北九州で働く女性の立場として意見を申し上げると、女性が働かなければならないなど、主婦や子育て中の人やこれから働きたいという人もいると思うが、北九州市ならではの女性活躍を何か打ち出していけたらと考える。もちろん、女性だけではなく、年配の方の活躍の場も欲しいという意見もあり、そういった目線ももちろん必要であるが、それぞれの立場で特化した人が中心となって輪を広げることが大切であるため、私の立場でできることがあればすべて協力したい。

≪石田 真一 構成員≫

○　まずはこの半年間、新ビジョン策定会議に参加させていただき感謝申し上げる。他の参加者の方のご意見やいただいた資料などを通じて多くの気付きや学びをいただくことができた。

人口減少という課題の中で、特に２０代の転出超過の歯止めがかかっていないことについては、大きな危機感を覚える一方で、今回の基本構想にある、特に「一歩先の価値観」の体現、というところを通じて、この流れを反転させる可能性が大いにあるのではと感じている。

若者の地方への関心が高まっていると言われて久しい中、東京圏の１５歳～２９歳を対象としたある調査では、全体の約４割が地方暮らしをしてみたいという回答もあった。我々のクラブでも、この２年で２０代の正社員を５名採用しているが、全て三大都市圏の出身者だった。コロナ禍でリモートワークなど新しい働き方の定着や、ＳＮＳの普及で人とのつながりを確保する手段が増えたことが背景にあるのかもしれないが、若者の価値観の変化が大きな理由だと感じている。

○　全体が成長していた一昔前は、世の中は１つの方向に向かい進んでいたと思う。例えば、東京は進んでいて地方は遅れている、アメリカは進んでいてアジアは遅れている、という時間軸を主流とした物差しだった。一方、今の世の中は、時間軸から空間軸に物差しがシフトしていると感じる。だれもが目指したい、目指すべき場所があるわけではなく、それぞれの地域の個性や多様性、文化などに人々の関心が向けられている。これからはローカルが輝く時代と言えるかもしれないし、様々な資源に恵まれた北九州市には大きな可能性があると感じている。

　これから本業のスポーツという分野で地域が一体となって、より輝くことができるよう微力ながら努力してまいりたい。

≪伊藤 直子 構成員≫

○　私は福祉分野ということでこの計画に携わった。北九州市に携わる者たちがいかに努力してきたのか、その結果を今後の変化とともにどう生かし、つないでいくのかが重要である。市民からのご意見にも、北九州市を愛していて、その思いで今後への期待が込められていると感じる。

○　今回、「稼げるまち」、「彩りあるまち」、「安らぐまち」、と３つのキーワードが出ているが、どれが優先というよりは、総合的に組み合わせていくことが重要である。この計画がさらに各分野別計画に落とし込まれて、どのように具体的に行動化していくのか、5 年ごとの検証をぜひ楽しみにしたい。また一つの分野に携わる者として、すべての携わる方々に対して、ぜひ一緒に手を携えていきましょうという思いである。

≪津田 純嗣 構成員≫

○　様々な意見を取り込みながら、総花的になりすぎず、わかりやすくなった。全体像がストーリーとして見えるようになり、良いアウトプットができたと考える。

○　これからは、いかに実効性のあるプロジェクトチームを作り、アウトプットを出せるかが勝負になってくるが、ＤＸが大きなキーワードとなり、その力を借りなければ、すべてのことは上手く行かない。アウトプットの１０が１００にもなる可能性を秘めたＤＸに対して、市のＤＸ推進も相当なスピードアップが必要であり、すべての観点で社会が加速度的に進む原動力のＤＸをいかにして使っていくか、実行段階ではよろしくお願いしたい。

≪寺山 大右 構成員≫

○　短時間で様々な意見を上手くまとめていただいた。市民のご意見を見ると、新ビジョンへの期待の高さを改めて感じた。ビジョン策定後は、この高い期待から、ビジョンの推進に関するエンゲージメントは得られていると思うため、その力を基に推進体制も上手く機能していけば良いと考える。

○　企業の観点からも様々な意見を盛り込んでいただいたであろうし、当地の企業の持つポテンシャルを上手く生かしていただけたらと考える。景気の現状を踏まえても、元々北九州は昨年から、コロナ明け後、着実に回復しており、日本全体として賃上げしながら適度な物価上昇の中で、全体の景気が上向くことが期待されている。そういったこともドライブに、新ビジョンが上手く展開し、「稼げるまち」が実現できたらと考える。

　金融面、日銀としてもサポートできることはしていきたい。

≪平山 由夏 構成員≫

○　まずは半年間でこれだけ素晴らしいものにしていただいて感謝申し上げる。今回、市民からの意見をたくさんいただいて、その中に面白い意見もたくさんあった。また、具体的にこの計画をどう実現するのか、という意見もたくさんあったと感じる。私自身も、このビジョンをいかに現実のものにしていくか、ということがとても重要な点だと感じる。花と緑に携わる者として、北九州を花と緑でいっぱいにしたいという思いでこの会に参加していた。今後もそこに力を注ぎ、魅力ある北九州を作っていきたい。

≪松永 守央 構成員≫

○　ビジョンをどう達成するかが重要で、それを踏まえると何かを実現するにはタイミングが重要であり、世の中の流れの中でタイミングを意識していただきたい。そういった意味では、短期的なものと中期的なものを分けて考えなくてはいけない。

　例えば短期的に言えば、「地球の歩き方」の北九州市版が来月出版されるが、このタイミングでいかに観光資源につなげるのか、急いでプロジェクトチームを作っていただくなど、対策が必要である。日本人だけではなく海外の人にもどうしたら来ていただけるか、海外の人に向けても、ＳＮＳで英語版を発信するなども必要である。必要な宿泊施設は、空き家をリノベーションして、民泊などを広げるなど、そういうことも含めて取り組んでいただきたい。

○　北九州は７区あり、とても広いため、地域ごとにどう特色を付けるのかが重要である。市民が住んでいる場所は、まず安全・安心である必要があり、それにはどんなまちづくりが必要なのか。

○　「稼げるまち」のためには既にある企業が頑張ることと、新たに誘致するということ。そのためには市街化調整区域を見直す努力が必要である。ＩＴ企業の進出ならばどのような場所や施設が必要か、大規模な製造拠点のための土地は今のところはない。なければ新たに作る必要があるため、そのためには地域を見直してもらい、ニーズがあった時に、すぐに対応できる準備を自治体としてはしていただきたい。

○　長期的に良いまちにするための要素はここに込められているので、まちの特色を出すために、どういう順番で政策を実行するのかが重要である。市民からの意見も色々とあり、全部重要ではあるが、どういう順番でやるかは市がリードして、ビジョンを達成するための優先順位を示せば、市民も納得すると考えられるので、そこを意識して情報を発信していただければ、まちがどんどん良くなるのではないか。

≪松本 真理子 構成員≫

○　３点述べさせていただきたい。まず、包括的で広範囲にわたるものを一つの計画にまとめ上げられ、心から敬意を表する。待機児童の解消など一つ一つ課題をクリアしてこられ、これからの新しい施策にも期待が持てると感じた。

○　２点目に、こども家庭庁ができ、こども真ん中の社会を実現していくにあたり、ぜひ縦割りではなく、ひとつの地続きのものとして、教育、子育て、親の働き方など取り組んでいただけるよう期待したい。北九州モデルと言えるような、突き抜けた形の教育や子育てに関する具体案を期待したい。

○　３点目に、各分野から人が集まって意見を伝え合うという交流の場があるということは、私にとってとても勉強になった。また、市民レベルで議論が行われたことにすごく価値があると考える。今日、学生の卒業研究の発表会があったが、やはり都会にあこがれて福岡や東京に出ていく学生は多いが、このようにいろんな分野の人が集まり議論が行われていることを話すと、学生たちは熱心に聞いてくる。２０代の転出超過が課題とされているが、引き続きこのように多様な対話を続けていくことが、若い世代がいつでも帰って来られる、魅力的で安全で安心な、便利で楽しいまちづくりにつながるのではないかと考える。引き続きこのような場が持たれることを期待したい。

≪三谷 康範 構成員≫

○　ビジョンに対する意見を拝見し、感じたことをお話しする。ビジョン策定に際し、ミライ・トークを通じて対話されていたことが好意的に受け取られているようである。特に、武内市長が自ら発信された言葉に対して、非常に共感したという声がいくつかあった。このように対話の機会を持つことはこれからも大切にしていかなくてはいけないと感じた。あとは具体的にどうするのか、という声もかなり多く見受けられたため、ビジョンを定めたからには具体性に向かって、ブレずに迅速に進めるという観点が一番重要である。

○　最後に１点だけ修正が必要だと思われる点がある。市民意見の「２６７」、「２６８」に、ジェンダー平等の観点を明記すべきではないかという指摘がある。私も違和感を感じていた部分であるが、最終案の６頁（３）を見ると、「性別にかかわらないキャリア形成の支援」とあり、「女性がそれぞれの～」という出だしがあるが、これは女性のライフスタイルを決めてしまう内容となっている。今、ジェンダーについて考えると、性別の話から脱却して、ものを考えなくてはいけない時代がやってきている。ＬＧＢＴＱや性自認性、性嗜好性のこともあり、色々な性がある中で考えていかなくてはいけない中、女性の能力を発揮してライフスタイルの

実現を支援するため、ではなく、それぞれの人々が能力を発揮するための、というように読み替えていかなくてはいけない。また、「性別にかかわらず」という部分は、「ジェンダーにかかわらず」と掲げて、子育ては男性がやっても当然良いし、多様な人々が関わるべきであることを考えながら進んでいかなくてはいけない。現状の書きぶりでは、ここだけ昭和の香が残ってしまうのではないか。この部分だけは再考した方が良い。

≪宮坂 春花 構成員≫

○　今回、知識や経験も浅い中、最年少で新ビジョン検討会議やミライ・トークにも参加させていただき、感謝申し上げる。二十歳で起業して、はや７年となるが、起業家精神や若者のチャレンジの応援、伴走、女性の活躍、グローバル化というところで、若者からいろんな意見を聞いて参加したが、実績や実力もまだまだな若者に対して、支援や伴走をしていただいていることを改めて今回実感したため、若者の力になってくれているのだ、ということをもっとより多くの人に伝えていきたい。

　ビジョンを具体的に形にしていくために、どういった取り組みをしていくのかを若者のリアルな声を聴きながら実践していきたい。

≪柳井 雅人 構成員≫

○　武内市長、大庭副市長のリーダーシップのもと、大きな戦略的部分は完成したということは良かったと思う。その上で、戦術的な部分について、あまり直せるタイミングではないかと思うが、３点述べさせていただく。

　１点目、基本構想に出てくる「包摂」という言葉は、ソーシャルインクルージョンの訳の「包摂性」ということで使っているかと思うが、一般の方に向けては少し補足した方が良いと考える。

○　２点目に、情報産業を項目として立てた方が良いと前回ご意見を申し上げたが、それについては、「３　稼げる「産業」をつくる」の、「（１）「バックアップ首都構想」の推進」に含まれているということで決着がついているかと思うが、こちらはデータセンターの話となっていて情報産業の話ではない。また、「（５）生産性向上・高付加価値化の推進」に、ＤＸの推進やＡＩ・ロボットの話などが出てくるが、こちらはモノに近い部分で、サービスからは離れているのではないか。情報サービス産業の的には弓矢が当たっているが、真ん中には当たっていない気がする。というのも、情報系企業が都心に進出しており、ものづくりの企業も情報系の部門を市内に動かしてきている。また、人手不足の影響で、福岡市から北九州市に情報サービス産業が流れてきている。これを上手く捕まえなくては市として成長が出来ないのではないかと危惧している。他の部局との調整もあるということだが、熊本に取られてしまう可能性もあるため、今後は戦術的に流れを上手く掴んでいかなければならない。

○　３点目に、５章が「人口増に向けた道筋」ということで総括部分となるかと思う。自治体の使命は、公的資源の最適配分と、税収を多く取ってサービスに回すことだと考えるが、人口増のターゲットは何になるのか。「稼げるまち」で一人当たりの所得を増やすのは基礎的で重要

な部分だが、実は大事なのは世帯収入である。世帯収入を上げないと出生率が上がらない。統計データを見ると相関性はかなり強く、代表的なのは東京の港区や中央区など、タワマンが集中してできており、小学校が増えている。実際に小学校が増えているエリアを詳細に分析し、それがどういう要因によるのか、ということを具体的に考えていく必要がある。そういう足を使った調査・研究をしっかりやっていただきたい。

○　最後に、世帯収入を上げるというのは、女性が働くということである。他の政令都市に比べて北九州市は労働人口が低い。そのために、新卒で入れるか、Uターン・Ｉターンで入れるか、または既存の市民に働いてもらうか。既存市民とは、高齢者や婦女子労働力である。そこが上手く流れるようなバックアップをして、世帯収入を増やして出生率を上げる、という流れが見える方が良いかと考えるが、書き直しは難しいため、戦術部分でしっかりとやっていただければと考える。企画調整局は各部局で作る分野別計画にしっかりと口を出した方が良い。

≪大庭 千賀子 副市長≫

○　今後の実行段階で戦術という話があったが、少しだけ説明をさせていただきたい。
世帯収入の増加を指標に入れるかどうかは内部でもかなり議論があった。世帯収入を平均値で見てしまうと北九州市は高齢者のみの世帯が多いということもあり、２０政令市の平均値で比較すると、特色が現れすぎて、非常に低く見えてしまう。そのため、人口問題に関しては、戦略を練る段階で、調整した上で見ていきたいと考える。

≪柳井 雅人 構成員≫

○　年齢層は大変重要で、２０～３９歳で男女の世帯収入を国勢調査で見た方が良い。